

(様式 3)

政務活動（参加・実施）報告書

令和 8 年 5 月 21 日

会 派 会派市民

参 加 者 桜井 忠

政務活動先 (目的地)	あさひかわ北彩都ガーデン				
開催団体等	健康なまちづくり推進議員連盟				
政務活動期間	令和 8 年 5 月 16 日				1 日間
政務活動項目 (名称等)	統合医療推進議連の取り組みと、医療・自治体における実践事例				
政務活動参加者	桜井 忠				
					計 1 名
全体参加者数	30 名				
政務活動の目的・結果等の概要・所見	統合医療推進議連の橋本聖子議員による講演 (1) 以前は統合医療に理解がなかったが、近年厚労省の中に室長を置き、厚労省の発する文章の中にも出てくるようになった。 (2) 健康と結びつくまちづくりには、医療モデルと社会モデルがあるが社会モデルは遅れていた。社会モデルをもっと重視しなければならない傾向がある。 (3) 社会モデルを推進するドクターはほとんどスポーツドクターである。 (4) スポーツ選手は 2 時間ごとに、どこにいるのか報告義務がある。日常生活の中で、公共交通機関や、自家用車の渋滞で予定より遅れることもあるが、きちんと報告しなければならない。そういう中で、抜打ちドーピング検査があり、夜中であれ、どんな状況でも対応しなければならない。 (5) 市販の薬でもドーピングでほとんどの薬はアウトだと思って間違いない。そこでスポーツファーマシーをつくり、薬を飲ませられないなかで、予防医療で健康管理をせざるを得ない。 (6) そういう中、札幌医大に講座ができ、渡辺ドクター（苫東卒）が就任した。 (7) ほとんどのドクターは世界中の製薬会社と繋がっている状況の中ではあるが、しかしスポーツの世界はそんな忖度は許さない。 (8) 人間の体は治癒能力が備わっている。アスリートは一般の人が 3 ヶ月で治癒したとしても 1 ヶ月で治る。そういう医療を目指				

	している。 (9) スポーツドクターをオリンピックに派遣している大学教授は「スポーツ医をオリンピックに派遣し、約1ヶ月で帰ってくると、西洋医学の限界がわかる」と語っている。 (10) 東日本大震災の時、スポーツドクターは大船渡市に派遣されたが、そこでは2次災害になった者はいない。目先の怪我を治すだけでなく、自分の治る力を上げる治療をしている。 (11) AIがオリンピックの採点に加わるようになってきた。リアルタイムに高速で行われる技を見極めることができるようになった。それにより審判が要らなくなるのではなく、審判の目が養われるようになった。またコーチもAIを利用することによって質が高くなる。 (12) これらが医療に生かされることにより、医療費削減につながる。スポーツ医療は統合医療。 (13) 翻って地域医療は方向転換し、介護になってからの予算投入ではなく、介護にならない予防医療に重点を置くようになる。 (14) 今ソフトバンクが北海道で実証実験しているが、部活にAIコーチを採用することによって、少子化、過疎化によって部活の専門的な指導者不足を補い、顧問は部内の全体責任を負うだけで良く、コーチングは動画を撮って東京に送り、一流のコーチがそれを見て、微細な角度や力の入り方を分析し、個々に練習の内容分析や今後の練習計画を返すことによって、素人の指導より生徒自身も聞くようになり、成果も出している。 (15) 以上の話を聞いて、苫小牧市の将来像として、日ハム2軍の誘致を図る→併せて統合医療の拠点づくりをする→統合医療とAIを中高生の部活動に活かす→または高齢者が元気で介護知らずを目指す→医療費抑制のまちづくりに寄与するようになるのではないかと思った。	
	資料名（会派保管）	

会派内回覧								
-------	---	---	--	--	--	--	--	--

(様式 3)

政務活動（参加・実施）報告書

令和 8 年 5 月 25 日

会 派 会派市民

参 加 者 桜井 忠

政務活動先 (目的地)	熊本市（熊本城復興、水資源について、健軍水源地）				
開催団体等	全国有志議員の会				
政務活動期間	令和 8 年 5 月 10 日～11 日				2 日間
政務活動項目 (名称等)	熊本の防災と水資源の保全				
政務活動参加者	桜井 忠				
					計 1 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	今回熊本市議会議員筑紫るみ子氏の企画で熊本市の抱える問題、①熊本地震の復興のシンボルである熊本城を市の担当者にご案内いただき、大地震の脅威と復興における息の長い取り組みを学ぶ。②水の都である熊本の地下水の力と、長年にわたる市民の保全の取り組み、及び近年 TSMC の工場誘致とフッ素汚染の監視を学ぶ。 1. 10 日 18:00～19:30 防災に強いポリウレタンの特性について、実物を検証しながら講義を聞く。ポリウレタンの一種だが、ポリウレタンのように軽く、しかし硬度は鋼のように強い特性を持つ。それによって可塑性に優れるほか、災害時のトレーラーハウスや地下シェルターに適している。しかも可塑性に優れるが、約 1 分以内の速乾性があるので作業範囲や時間の節約に優れている。半製品を作り、ドローンで運搬し、現地で組み立てることも可能。既存の芯の入っていない塀に吹き付けたら、塀の強度が格段に増す。ノリ面の崩落留め工事などにも従来工法より格段に強度が増す。下水管内部に吹き付けることにより老朽管が復旧するなどの利点がある。問題は価格が若干高いこと。 2. 11 日 9:00～10:40 市担当者から熊本城をご案内いただく。観光客で溢れているが、観光とは違う視点で説明をしていただく。 3. 11:00～12:30 熊本市役所で災害時の熊本市の被害状況を聞く。				

- (1) 2度の地震は深夜のため多くの方は家にいた。これが日中に起こっていたならば被害はまだまだ大きくなったであろうことが想像される。(ショッピングモールの天井が崩れたが、この利用客は最大6,000人を超えることを考えても、不幸中の幸いと言える)
- (2) 避難所は車中泊で溢れた。余震の恐ろしさや、ペットとの同伴などが理由。
- (3) 避難者は11万人を超えて、指定避難所だけでは足りなかった。
- (4) 校舎の被害も大きく、教育にも大きな影響が及んだ。
- (5) 市役所の実情は
 - ① 職員の安否も不明、参集状況も把握できない。
 - ② 職員も初めての経験に動揺した。
 - ③ 次から次へと殺到する電話対応に忙殺される職員。
 - ④ 役に立たなかった既存の対応マニュアル。
 - ⑤ 庁舎、区役所のフロアーにも多くの避難者が押し寄せる。
 - ⑥ 何からどうしていくのか態勢づくりに1~2日間混乱が続いた。
 - ⑦ 痛感したことは、突然災害に襲われた直後に市役所は通常の行政機能は保てない。
- (6) 浮き彫りになった災害対応の課題。
 - ① 避難所
 - ① 避難者支援の限界 i 避難所の鍵を持っている先生と翌朝まで連絡が取れない。 ii 職員の避難所開設マニュアルに未精通。 iii 全く足りなかった備蓄物資。 iv 避難所へ届かない支援物資。
 - ② 職員中心の避難所運営体制の限界か (職員は避難所全体の把握はできず、支援物資の配給に追われ、物資が届くと本部前の避難者のみに配給した) i 職員は重圧に焦りと疲弊。 ii 避難者は不信感と不満。 iii 避難所運営の非効率性が浮き彫りになった (毎日交代で違う職員が来ることがわかった)。 iv 避難所運営に関わったかをアンケートしたところ、関わった17.1%。全く関わっていない49.7%。無回答33.2%だった。約74%がいわゆる「お客様」状態だった。
 - ③ 避難者の状況が把握できない。 i 車中泊やテント泊が何処にどれくらいの避難者がいるのか把握できなかった。
 - ④ 避難所の不足。 i 体育館 (25箇所/全139箇所) が被災し開設できなかった。 ii 避難者が2,000人を超える避難所もあった。
 - ⑤ 多様な状況を抱える避難者対応の課題。 i 物資配給の列に並べない「要配慮者」への対応。 ii 福祉避難所に一般避難者が押し寄せ役目を果たせず。 iii ペットから離れられない飼主は車中泊へ。 iv 女性や外国人避難者への配慮。
 - ② 情報管理。
 - ① デマ、誤情報と情報発信。 i 悪質なデマ情報や誤情報に振り回される職員や避難者。
 - ② 孤立する避難所・情報難民 i 本部から避難所の状況見えず、本部に要望届かず。
 - ③ 備蓄・支援物資。
 - ① 不足した備蓄と混乱した物資配送。 i ピーク時はトラックが100台連なり、荷降ろしに最大8時間待ちの状況。マンパワー頼りの非効率な荷降ろし。パレット積みで改善する。保管も何処に何があるのかやっと改善される。
 - ④ 被災者支援・受援。
 - ① 罹災証明。 i 住宅調査が進まず、発行が

遅れる。ii 約 136,000 件の家屋調査があったが、当初は 1 日数件程度の進捗でマンパワー不足が露呈した。iii 全国から 120,000 人余の人的支援があった。しかし貴重なマンパワーのマネジメントができたか反省がある。

- ⑤ 経験を踏まえた対応と備え。(1)熊本地震と議会对応。㊦発災直後、議員も避難者支援に地域を奔走。㊧市対策本部に対し、随時、指摘や要望があった。個人ではなく議会としての対応の重要性があり、熊本市議会災害対策会議設置要項を定め市議会窓口を一本化した。(2)自助・共助・公助の強化。の三助はもっとも重要だが、それにも限界がある。市民・地域・行政の力を結集がキーワード。

- (7) 熊本地震を経験して地域防災計画を改訂。

4. 13:30～14:30 熊本市は水の都と言われるくらいに地下湧水が豊富なまちだが、阿蘇火山の噴出物の堆積という地層的な要因と、加藤清正の城下町づくりもあるが、熊本市民が具体的に涵養し、「蛇口をひねればミネラルウォーター」と言われるだけの水を守ってきた歴史があることを学んだ。

(1)熊本市の人口は約 73 万人。面積約 390 km²。(2)経済的发展に伴い湧水量の減少が見られたので 1973 年～74 年、県と市が共同で「熊本市及び周辺地域地下水調査」を行った。(3)地下水の湧水量より涵養量が少なく、1975 年には水源地にマンション建設が計画された。(4)1976 年熊本市議会は「地下水保全都市宣言」を行なった。(5)しかし、地下水量の減少は続き、非涵養域は 1976 年に比べ 2014 年は 2.5 倍に広がった。(6)市民の水使用量を 2002 年 254L を 2024 年 220L に下げたが、九州平均の 210L、更には福岡市の 200L まで下げる努力を呼びかけ、2030 年目標を 210L としている。(7)また、東部地区が硝酸性窒素による汚染が確認されたので、東武堆肥センターを整備した。(8)その他、涵養林整備事業を行い、また企業の協力を得て水田涵養を行なっている。

5. 15:00～16:30 実際に健軍水源地进行現地視察した。最初の会議室での話は市役所での話と重複するものが多く、現地視察に重点を置いた。

なお、翌日 TSMC 周辺の視察があったが、私は代表者会議があったため欠席をした。

今回の視察において水の都と言われている熊本市にあっても節水の取り組みをしていることが注目されたが、水が大切なことは苦小牧市においても同様のことが考えられる。さらに熊本の地震から 10 年が経つが、着実に復興をしている姿に、それに関わっている人々の努力に敬意を表するとともに、打ちひしがれても倒れない多くの人々の力に感服する。しかし一口に地震と言っても都市型災害の阪

	神大震災、津波被害の東日本大震災、その他にも交通が分断され復興が遅れている能登地震、今回の熊本を含め、皆違う被害に遭っていて、これでいいという答えはない。だから苫小牧市においても各方面からの検証をして、無駄に思えるかもしれないが、万全の対応で臨むべきと思った。	
	資料名（会派保管）	各課作成のレジメ

会派内回覧								
-------	--	--	--	--	--	--	--	--